

2005年10月21日

株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町

2-5 F・Kビル

TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

広報部 03-3664-5697

アジアの機能性プラスチックコンパウンド市場調査を実施

- アジアのポリカーボネートコンパウンド市場は、05年1,442億円(04年比21%増)に拡大 -

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 代表取締役 阿部英雄 03-3664-5811)は、前回の調査から2年、アジア地域において急速に拡大し、自動車・エレクトロニクス分野で高機能化が進むプラスチックコンパウンド市場の調査を、05年8月~10月の間に実施した。この調査では、汎用樹脂6品目、エンブラ7品目、スーパーエンブラ2品目、その他2品目と生分解性プラスチックの合計18品目の樹脂を対象にその最新動向を徹底分析した。この調査結果を報告書「2005年 機能性プラスチックコンパウンド市場の現状と将来展望」にまとめた。

<調査結果>

1. 樹脂の全体需要動向(日本を含むアジア市場と日本国内市場)

	2005年見込	05/04年比	2009年予測	09/04年比
<アジア>				
数量ベース市場	5,385万トン	5.7%増	6,692万トン	31.4%増
金額ベース市場	10兆2,779億円	14.3%増	13兆8,874億円	54.5%増
<日本>				
数量ベース市場	800万トン	1.9%増	841万トン	7.0%増
金額ベース市場	1兆8,120億円	10.6%増	2兆1,414億円	30.7%増

(1) アジア全体市場

樹脂市場は05年には前年比6%増、5,385万トンになる見込みである。さらに09年には6,692万トン(04年比31%増)に拡大すると予測される。原料高から各樹脂の価格が上昇しており、金額ベースでは数量ベースより伸びが大きく、05年は前年比14%増、10兆2,779億円になる見込みである。09年には13兆8,874億円(04年比55%増)と予測される。05年、金額ベースで前年比22%増と最も伸びている塩化ビニル(PVC)は1兆4,500億円を超える。

(2) 日本市場

05年には前年比2%増、800万トンになる見込みである。さらに09年には841万トン(04年比7%増)に拡大すると予測される。汎用樹脂から、エンブラ、スーパーエンブラへと高機能化して樹脂価格が上昇しており、金額ベースでは数量ベースより伸びが大きく、05年は前年比11%増、1兆8,120億円になる見込みである。09年には2兆1,414億円(04年比31%増)になると予測される。05年、金額ベースで最も伸びる樹脂は液晶ポリマー(LCP)で前年から21%伸びて、132億円になると見られる。電子部品のコネクターや液晶バックライト用に多く使われることによる。

2. 樹脂コンパウンドの全体需要動向(日本を含むアジア市場と日本国内市場)

	2005年見込み	05/04年比	2009年予測	09/04年比
<アジア>				
数量ベース市場	636万トン	6.7%増	800万トン	34.3%増
金額ベース市場	1兆6,339億円	16.0%増	2兆4,642億円	75.0%増
<日本>				
数量ベース市場	161万トン	2.2%増	173万トン	9.7%増
金額ベース市場	5,188億円	9.9%増	6,010億円	27.3%増

基本的に樹脂原料(ニートレジン)の物性を改質して機能性を付与したものを樹脂コンパウンドと定義した。近年は、エンドユーザーの多様化に伴ない、樹脂に機能を付与したコンパウンドに対するさまざまな要望が高まる

傾向にある。またエンドユーザー（日系企業）の海外生産シフトに追随して、素材メーカーもコンパウンドの海外製造拠点拡充を図っている。

（１）アジア全体市場

05年には前年比7%増の636万トンとなる見込みである。さらに09年には800万トン（04年比34%増）に拡大すると予測される。背景には、日系エンドユーザーのアジア進出に伴い、現地に進出したコンパウンドメーカーの実績もある。金額ベースでは数量ベースより伸びが大きく、05年には1兆6,339億円になる見込みである。09年には2兆4,642億円（04年比75%増）と大幅な拡大が予測される。05年、最も伸びている機能性コンパウンドは塩化ビニル（PVC）で03年からの2年間で62%増、4,173億円となる。中国の北京オリンピック（08年）や上海万博（10年）に向けての社会インフラの整備が牽引している。

（２）日本市場

05年には前年比2%増、161万トンとやや増になる見込みである。さらに09年は173万トン（前年比2%弱増）と、海外進出の影響が明らかに現れると予測される。汎用樹脂から、エンブラ、スーパーエンブラへと新開発原料の割合が高まり、かつ原料高もあり金額ベースは数量ベースより拡大が予想される。05年には前年比10%増、5,188億円で、09年には6,010億円（04年比27%増）に達すると予測される。05年、金額ベースで最も伸びる液晶ポリマー（LCP）は03年からの2年間で47%、ポリフェニレンサルファイド（PPS）は43%、オレフィン系エラストマー（TPV）は40%などの高機能樹脂の伸びが見込まれる。

3．主要分野別機能性コンパウンドの用途と製品要求（2005年：数量ベース）

機能性コンパウンドの用途は多分野にわたり、ユーザーニーズも多様化している。日本では、自動車分野で41%、エレクトロニクス分野で28%とこの2分野でほぼ70%を占める。建設、食品などがその他の分野である。

日本を除くアジア市場では、エレクトロニクス分野が44%、自動車分野が8%とこれから更に拡大が予測される。その他分野が50%弱を占めている。

自動車分野 内装部材やモール類には、リサイクル性や軽量化の面で、インパネの表皮、リアクォーターパネルなどにオレフィン系エラストマー（TPO）、ドアトリム・アームレスト表皮やエアインテークホースなどにオレフィン系エラストマー（TPV）を採用する動きが急速に広まっている。

自動車メーカーは、東南アジアにおける現地一貫生産体制の確立、優良部品の調達の強化を目指す一方、中国では、今後の消費市場の拡大に対応して、大幅に生産能力の増強を目指す。アジア地域のコンパウンド需要は増加し、現地供給体制の整備が重要となる。但し、コストダウン要請がさらに強まり、品質管理の徹底、最適調達体制も求められる。さらに、現地のライバルメーカーとの競争が激化する。

エレクトロニクス分野 エレクトロニクス製品は高速処理、大容量化にともない、エネルギー消費量が増し、内部が高温になりやすい。そのため素材にも難燃性や耐熱性、熱放散性に優れた新製品への要求が強まっている。携帯用小型製品が増加して、その素材は寸法精度や耐衝撃性が要求される。

エレクトロニクスセットメーカーは、中国・東南アジアで現地一貫生産体制の構築を進めている。部材も現地調達方式に完全移行する。素材メーカーに対しては、品質・コスト・納期・サービス（QCDS）の要求が厳しくなり、コストダウン要請も一層強まる。現地調達が汎用品のみならず機能品に拡大する可能性が高まり、日系素材メーカーは高機能製品用の新素材の技術開発が急務となる。

<注目される主要樹脂市場>

ポリプロピレン（PP）

2005年見込み

日本 270万トン（04年比4%増） 日本を除くアジア 1,670万トン（04年比6%増）

日本を除くアジアで、中国は8%前後で拡大して行くと見られ、インド市場の成長も目覚ましい。日本を除くアジア全体市場は今後、年率6~7%前後で拡大するものと見られる。日本市場は、自動車だけではなく、一般的にあらゆる用途で需要が伸び、05年は前年比4%増の270万トンの見込みである。コンパウンドとしての使用量は、日本を除くアジアではわずかに3%に過ぎず、その58%が自動車向けである。日本内需は樹脂コンパウンドのうち80%の37万トンを自動車の樹脂化部品として使用し、自動車のリサイクル、軽量化に貢献する。

塩化ビニル（PVC）

2005年見込み

日本 145万トン（04年比1%減） 日本を除くアジア 1,322万トン（04年比6%増）

アジア市場は、中国を中心にPVC需要が旺盛で、08年の北京オリンピックや、10年の上海万博に向けて社

会インフラを整備する建築用途が大幅に拡大している。今後とも年率6%前後で増加する見通しである。なお、金額ベースでは原油高騰の影響により二桁の高い伸びとなっている。

今後中国の生活レベルが向上することでさらに需要が期待できる。日本市場は各メーカーが事業再編や収益改善策、合理的な価格体系への転換などの結果、ほぼ底打ちしている。ただ国内市場はすでに成熟化しており、今後は横ばいないし微減傾向で推移すると想定される。

ポリカーボネート樹脂（PC）

2005年見込み

日本 35万トン（04年比5%増） 日本を除くアジア 139万トン（04年比11%増）

アジアにおけるPC樹脂需要は中国の需要が全体を牽引し、アジア全体で年10%以上の増加で推移している。中国では、年20%の伸びで市場が拡大しており、2005年以降も、年11~14%程度伸びると予測される。中国でのエレクトロニクス製品の生産拡大に伴って、コンパウンドの中でも高い難燃製品、PC/ABS製品などの需要が拡大しているためである。

日本では、中国への生産シフトも進んでいるが、液晶テレビの生産拠点は国内にあり、液晶の筐体向けPC/ABS製品の供給が拡大している。

日本を除くアジアでの用途は、電気・電子・OA向けが34%を占め、特に中国を中心としてOA機器のハウジング需要の伸びは著しい。ついで30%を占めるのが台湾を中心とする光メディア向け需要であり、市場を牽引している。日本の内需の用途は、電気・電子・OA向けが27%を占め、難燃要求により、他の樹脂からPCへ代替が進んでいる。このコンパウンドは自動車分野ではヘッドライトなど透明性を要求される部品に採用される。

調査の内容 調査は全体の内容構成を以下の通り拡大深化させた。

前回版よりも更に用途別・グレード別・メーカー別動向を綿密かつより深く精査分析する。

アジア全体の視点からコンパウンド市場を調査し、より俯瞰的かつ経済実態に即した動向を把握する。

ユーザーサイドの動向を明らかにするため、自動車分野とエレクトロニクス分野を調査対象として、採用側の客観的な意向やニーズを提示する。

調査対象品目

A 汎用樹脂 1.ポリプロピレン(PP) 2.ポリエチレン(PE) 3.塩化ビニル(PVC) 4.ポリスチレン(PS) 5.ABS樹脂 6.ASA樹脂、AES樹脂

B エンプラ 1.ポリカーボネート(PC) 2.ポリアミド6(PA6) 3.ポリアミド66(PA66) 4.ポリアセタール(POM) 5.変性ポリフェニレンエーテル(m-PPE) 6.ポリブチレンテレフタレート(PBT) 7.ガラス強化ポリエチレンテレフタレート(GF-PET)

C スーパーエンプラ 1.ポリフェニレンサルファイド(PPS) 2.液晶ポリマー(LCP)

D その他 オレフィン系エラストマー (TPO) 2.オレフィン系エラストマー (TPV) 3.生分解性プラスチック

調査方法 弊社調査員が、主要コンパウンドメーカー約50社に取材し、さらに官公庁や関係団体の公表データ、社内データを基に、前回調査データも活用してまとめた。

調査期間 2005年8月~2005年10月

以上

タイトル：「2005年 機能性プラスチックコンパウンド市場の現状と将来展望」

体裁：A4判 287頁

価格：100,000円（税込み 105,000円）

CD-ROMセット 110,000円（税込み 115,500円）

調査・編集：富士経済 東京マーケティング本部第3事業部 ケミカルグループ

TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514

発行所：株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL 03-3664-5811(代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp>